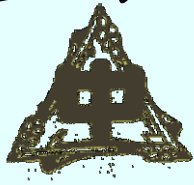


美園中だより

さいたま市立美園中学校



TEL 048-878-0019

<http://misono-j.saitama-city.ed.jp/>

第6号 平成27年10月1日

学校教育目標

世界にはばたけ
さわやかな学校

☆ 夢をはぐくみ

☆ 知を磨き

☆ 心身を鍛える



花野

校長 藤澤 太郎

体育祭が終わり、10月はいよいよ新人戦、市学力検査の1回目（3年生は）など、子どもたちの秋の陣がいよいよ本格化してきました。陽が出た時はそれなりに汗のにじむ季節ではありますが、朝晩はゆっくりと気温が下がってとても過ごしやすくなりました。また、乾いた風が心地よく感じます。各教室ではこんな気候から、より集中して授業に取り組む生徒の姿が見られ、うれしくなると同時に子どもたちの活動(学習)環境の大切さを再認識させられたところです。

いきなりですが、秋からイメージされる語句は？何か浮かびますか？私は、例えば豊穰の「豊」や、天高く、の「天(空)」や、実りの、の「実」などが思い浮かびます。他にも「紅葉」、「いちょう」、「鈴虫」、「落ち葉」、「だんご」、「すすき」、「秋刀魚」、「赤とんぼ」、「柿」、「梨」等々、きりがいいほどに出てきます。そして、これらはどれも人の五感六感に直接働きかけるものばかりです。これほどはつきりとした「銀杏の黄」であり、美しい「鈴虫の音色」であり、脂の乗った「秋刀魚」の焼けるおいしい臭いであるのだと思います。また、一口に秋と言っても初秋から晩秋まで、秋は様々な表情を見せてくれます。私たち自身も秋に取り込まれ、秋色に染まっていく気がします。この季節に毎年思いますが、季節の移り変わりのスピードが年々加速し、よほど注意して見ていないと、紅葉は落ち葉に変身し、ムクロジが頭をコツンツとやり、烏瓜のオレンジがシワシワの朱色の塊になっていきます。ここまでは、秋の定番ですね。

最近、秋桜の花を見て、この季節の草花に興味湧き、少し調べてみました。秋の野花の世界もなかなか素晴らしいものだと思います。ガマの穂のように遠くからでも見つけやすいものは直ぐに有名になるのですが、特に路傍にチョンと生えている可憐な植物には今まで目を向けませんでした。そのどれにも立派な名前が付いていて感心します。桔梗、おみなえし、撫子など、もちろんこれらは滅多に見ることはできません。この辺では、ススキ、エノコログサ、タデの類、アザミの類、野菊の類は普通に目にすることができます。植物というのは目にしたときの状態により同種であってもなかなか図鑑とは一致しないので困りますが、エイヤッと、「これは〇〇に違いない」と自分に言い聞かせています。

ところで、花は出合ったその場では何もしゃべりませんが、毎日その花を観察していると、様々な表情があることが分かります。主として日の向き、開花からの日数、水分の具合、風の具合、気温の変化などが関係していると思われれます。夏の花よりも耐力があるように思いますし、繊細できれいだと思う時もあります。でも、「花の気持ち」までは分かりません。もっと未来には分かるようになるとも想像されますが、しかし、、、

もうすぐ合唱コンクールがあります。各クラスの取組の過程では、「皆と声を合わせて歌おう」という事になり、その次に、「手拍子をしよう 心を合わせて歌おう」なんてことになってきます。心を合わせるとはまた難しいことを、、と思いますが、何回か歌っているうちに盛り上がってきて、皆と心が通ったような、声がシンクロしたような気持ちになってくるから不思議です。合唱はこの瞬間が一番の醍醐味と考えます。また、合唱曲には歌詞が付いていますので、初めはそれをよく読んでみるのが大切です。そうして、詩を解釈し、曲の盛り上がりとの関連を考えたり、ハーモニーの組み方や音色を考えたりすることが必要となってくると思います。中には、自分や自分たちの歌いたいようには歌わせてくれない曲もあるかもしれません。諦めずにパート練習や指揮者との合わせを行えば、きっと自分たちが目指す合唱が見えてくると思います。頑張ってください。

花と契りを結ぶ程ではありませんが、秋の花が好きになったので、こんな自分でも花心が少しはあるんだなと思ったこのごろです。花心と歌心、その心の発端(スタート)は意外と同じようなところにあるのかな？と同時に思いました。「花野」とは季語で扱われる言葉ですが、秋の草花がいっぱいに咲き誇る場所があれば、その場所こそ「花野」と呼べるのだと思いますし、皆さんの心の中には、既に幾つもの「花野」があるのだと思っています。10月も頑張りましょう。

